

2022 年度・友愛労働歴史館・事業報告

友愛会系労働運動の歴史資料館として2012年8月に新装オープンした友愛労働歴史館は、「先達者のメッセージを読み解き、再発信する」ことをスローガンに①展示会・講演会の活動、②資料の収集・管理、調査・研究の活動、③情報発信・PRの活動などに取り組んできた。

2022年度は、新型コロナウイルスの勢いも一進一退、依然その影響は大きい中、この中間期の最中、9月14日に縮小オープンから1年を迎えたばかりである。

2022年度(2022.4.1～2023.3.31)の事業活動は次の通り。

I 展示会・講演会活動について

1. 展示会（企画展・常設展）活動

展示会活動は常設展と企画展を開催してきました。

(1) 常設展

「日本労働運動の100年余り-友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は、2012年8月1日のオープン以来、原則同一内容で開催している。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という格言から、労働運動の歴史は不変であるとの思いから常設展を開催している。

来館者の推移をみると、2022年、4月29名、5月24名、6月54名、7月116名、8月88名、9月14名、10月66名、11月19名、12月286名、2023年、1月24名、2月73名、3月13名であった。

2022年度には通算806名が来館した。新型コロナに関わる規制緩和とともに団体見学も回復傾向で、来館者は増加している。また、コロナ禍の規制緩和の中でも団体移動に懸念する組織から出張講演を望む声が大きくなり、2022年1月より出張講演を積極的に受けることにした。そして、出張講演の受講者数を来館者数に加味することとした。出張講演受講者数は全体の51.0%にあたり、延べ411名に及ぶ。

2012年8月1日の新装オープン以来の延べ入館者数(名)は、11,496名(2023年3月末日現在)となった。

(2) 企画展

当会館で2021年3月8日～7月5日に企画展示した「鬘(たてがみ)を持つ男・西尾末廣—労働運動・政治運動に生きた生涯—」の再展示を、西尾末廣氏に縁の深い大阪で2022年7月21日(木)～22日(金)、(場所：JAM西日本会館、時間：10:00～16:00)の二日間開催した。短期間開催であったが、労使研、民社協会、各産別(加盟組合含む)組織関係者36名、大学教員など一般参加者7名、総員43名の皆様が来場した。

展示のあらましを紹介すると、戦前、大阪・関西を中心に友愛会・総同盟の労働運動に取り組んだ西尾末廣。戦後は日本社会党の結成を主導し、片山内閣の官房長官を務める。逆境にあってもぶれない姿勢と風貌から西尾末廣は風雪の人、百折不撓の人、鬘(たてがみ)を持つ男と呼ばれた。自ら結党した日本社会党の容共・反米主義を批判した西尾末廣は、1960年に民社党を結党するなどその姿勢は一貫して反共主義・反全体主義であった。2021年は西尾末廣(1891.3.28～1981.10.3)の生誕130年、没後40年。友愛労働歴史館はこれを記念し、企画

展「鬘（たてがみ）を持つ男・西尾末廣―労働運動・政治運動に生きた生涯―」（2021.3.8～7.5）を開催したものに、大阪での労組活動等に関する資料を加え、関係の深い関西・大阪で再展示した。

2. 講演会活動

(1) 講演会

例年は、企画展と連動させた講演会・労働講座を労使関係研究協会や友愛会創立を記念する会と共催、もしくは単独で開催していた。今年は、友愛会創立を記念する会は、記念講演として、講師に友愛労働歴史館の副館長である間宮悠紀雄氏を招き、「日本労働運動の110年～友愛会から連合へ～」をテーマに講演を行った。

内容の要旨を紹介すると、福澤諭吉は、ユニテリアンを支え、惟一館建設を助けたことにより、今日「友愛会誕生のきっかけを作った人」とされている。福澤の「独立自尊」とユニテリアンの「自己信頼」は、友愛会基本理念である人格の尊重、自由主義（リベラリズム）と通底。また、渋沢栄一は「日本資本主義の父」とされるが、初期の友愛会と鈴木文治を支えたゆかりの人でもある。当時の経営者としては珍しく、労働者も経営者・資本家も「人格において対等」とであると説いた。まもなく戦時体制を目指す政府は、労働組合の解散、産報への参加圧力を高め、総同盟は労働組合の自主性を掲げ、産報への合流を拒否していたが、1940年自主解散に追い込まれ、戦前期労働運動は終焉。

戦後まもなく、1946年総同盟、産別会議の結成。1950年民主的労働運動を目指し、総評が結成。しかし結成後わずか半年で左旋回。容共反米の組織となる。1954年全労（全日本労働組合会議）の誕生。1956年近江絹糸の人権闘争、日鋼室蘭争議、1960年三井三池争議を闘った。これらを経て、1964年全労から同盟へ発展。これ以降、総評・同盟・中立労連・新産別が競合する労働4団体時代がスタート。1989年11月連合が結成。

友愛会創立から110年の長きにわたり、戦前・戦後の幾多の困難を乗り越えて、今日に至る歴史と友愛会の持つその精神を語ってもらった。

(2) 出張講演

今期から賛同会員の組織等からの講演依頼については積極的に受けている。コロナ禍で集団移動に懸念をする組織が多く、出張講演は好評を得ている。

① UA ゼンセン・フジグループ労働組合連合会トップセミナー・出張講演（藤吉館長）

6月16日（木）、演題「未来に向けた労働組合が果たすべき役割」で、労使関係の考え方と生産性運動の三原則～厳しい環境下における労使関係～を実施。生産性運動三原則の今日的な理解、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。参加者合計32名。

② UA ゼンセン・専門店ユニオン連合会「2022年度労使懇談会」・出張講演（藤吉館長）

7月27日（水）、演題は「労使関係の考え方と生産性運動の三原則～厳しい環境下における労使関係～」。同盟的なコーポレートガバナンス（企業統治）の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。会社側24名、組合側37名の合計61名の参加。

③ UA ゼンセン・流通部門・伝承塾「惟一塾」逢見直人塾長・出張講演（藤吉館長）

8月29日（月）～31（水）、演題「次世代に期待すること」として、労働組合主義と労使関係の考え方、生産性運動の三原則とあるべき労使関係、労働組合の必須である政治活動、反自民非共産の思想。参加者合計16名（延べ48名）

④ UA ゼンセン広島県支部・第5回夜間学習会・出張講演(藤吉館長)

10月6日(木)、演題「労働運動の先人に学ぶ～次世代に期待(伝承)すること」として、鈴木文治、松岡駒吉のメッセージと友愛会系同盟の精神と行動。産業別労働組合の役割と責任、労働運動と政治、私たちの労働運動思想、同盟的なコーポレートガバナンス(企業統治)の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。参加者合計 26名

⑤ UA ゼンセン流通部門・関東・東京エリア合同10周年記念講演 出張講演(藤吉館長)

12月9日(金)〈上野会場〉参加者132名、12月19日(月)〈大宮会場〉参加者97名、演題「流通の産別統合とその後の運動の課題」として、より政治に関与するとともに政策実現の重要性、基本に鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を講演しました。二会場の参加者合計229名

⑥ UA ゼンセン流通部門・政治選挙戦術会議 出張講演(藤吉館長)15名

2月13日(月)~14日(火) 労働運動の歴史と政治活動の関連について、切り離せないものとして反共産から非共産への道のり、戦前戦後の歴史を振り返り、今後の課題を講演しました。

II 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は年間を通し、資料の収集・管理に取り組んでいる。また、必要な調査・研究活動に取り組んでいる。

1. 資料の収集・管理

友愛労働歴史館は連合資料室、社会・労働関係資料センター連絡協議会(労働資料協)と連携し、①友愛会から総同盟・同盟までの民主的労働運動、②社会民衆党から社会党・民社党までの民主的社会主義運動、③福澤諭吉や安部磯雄らユニテリアン教会・惟一館(現友愛会館)ゆかりの社会運動に関する資料の収集・管理に取り組んでいる。

- (1) 書籍「実録生産性論争」1冊 公益財団法人日本生産性本部 様 2022年4月
- (2) 書籍「港区史」通史編 近代(上)(下) 各1冊 東京都港区 様 2022年5月
- (3) 写真「民社党関係」 三河谷 進 様 2022年7月
- (4) 書籍「自由の防人となって」1冊 中村勝範先生・追悼事務局 様 2022年9月
- (5) 会議録・書籍 鉄道労働組合(鉄労)の書籍、資料多数(窪田哲夫様) 2022年2月
- (6) 献本 大内啓伍追悼文集「江戸っ子 大内さん」 寺井 融様 2023年3月
- (7) 以下の三点 社団法人富士社会教育センター・逢見直人理事長より寄贈
 - ①社会大衆党・演説会ポスター(埼玉県浦和)
 - ②昭和2年2月18日発行 社会民衆党パンフレット
 - ③昭和4年4月10日発行 社会民衆新聞

2022年度は、上記(1)~(7)の労働運動、社会運動関連資料の寄贈を受けた。また、書籍など資料のリユースを行う労働資料協に加盟し、各種資料や情報の入手に取り組んでいる。

また、2022年度(第37回)社会・労働関係資料センター連絡協議会定期総会と研修会が、10月24日~25日に開かれた。

友愛労働歴史館には今まで個人・団体から寄贈を受けた資料が未整理状態にあり、当館倉庫（友愛会館地下1・2階）に保存している。年間を通し、これらの資料の整理作業に取り組んでいる。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の2つを設置しているが、新型コロナウイルスへの対応のため2022年中間期は、両常設委員会を開催することはなかった。

また、特別委員会として井堀繁雄研究会を設置しており、梅澤昇平調査研究員を主査とし井堀繁雄（労働運動家・協同組合活動家・政治家・日本労働会館理事長・全金同盟組合長）に関する調査・研究を行ってきた。井堀繁雄が残した手帳・日誌のデジタル化作業や評伝『井堀繁雄—労働運動・協同組合運動に生きた男—』（仮題）の制作に取り組んでいる。

- (1) 調査研究員会議が2月17日（木）、友愛労働歴史館展示室にて、9名の出席をもって開催された。開会にあたり徳田館長より、日本労働会館の現状と友愛労働歴史館の今後のあり方について挨拶を受けた。

報告事項として、①日本労働会館・三田会館の現状について②友愛労働史館2021年の活動について③歴史館の役員・調査研究員について。確認事項として、①新たな調査研究員の選任について、現友愛労働歴史館副館長の間宮悠紀雄氏が選任された。②今後の活動について活発な意見交換がなされた。

- ① 井堀繁雄研究会（代表：梅澤昇平氏）が3月24日（木）、友愛労働歴史館書庫閲覧室にて、9名の出席をもって開催された。本研究会は、2018年に発足。井堀繁雄（労働運動家・政治家・協同組合運動家）の資料の収集・管理・研究に取り組んできた。

井堀繁雄は、1915年八幡製鐵所に務め、1918年神戸川崎造船所の職工に転じ、1919年友愛会に加わり、1921年（大正10年）の川崎・三菱大争議に参加し、検挙され、同時に解雇、6カ月投獄された。そして日本労働学校を卒業した1925年に埼玉県・現在の草加市の大阪窯業に入社。その後、埼玉・川口を拠点に総同盟運動に取り組む。また、社会民衆党埼玉県連書記長、同党中央委員、社会大衆党埼玉県連執行委員を歴任した。

戦後、総同盟再建に加わり、日本労働組合総同盟副会長、全国金属産業労働組合同盟会長（現JAM）や日本労働会館の理事長を務めた。また政治家としても衆議院議員を3期務め、西尾末廣国務大臣秘書官、経済安定本部員など活躍した人物である。

研究会では、①井堀繁雄の生涯とその意義②井堀繁雄研究会について報告した。

Ⅲ 情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館は、インターネットを利用したメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信、ホームページでの情報提供・PRなどに取り組んでいる。また、研究者・学生等への相談対応、資料提供などに取り組んでいる。

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信

2022年4月以降、175号（4月25日）、176号（5月27日）、177号（6月28日）、178号（7月29

日)、179号(8月25日)、180号(9月29日)、181号(10月27日)、182号(11月30日)、183号(12月26日)、184号(1月31日)、185号(2月28日)、186号(3月28日)、まで発信。2023年3月末現在のメールアドレス登録者は1329名である。

友愛労働歴史館 E メールアドレス yuairodorekishikan@rodokaikan.org

2. 労働歴史館ホームページ

友愛労働歴史館は情報提供用にホームページ <http://www.yuairodorekishikan.com> を開設し、随時更新している。

3. 労働歴史館・公式ツイッター、その他による発信



友愛労働歴史館は公式ツイッター(@yuaireshi1912)で情報発信している。その他、当館常設展チラシ、その他を活用し、紙媒体でのPR活動を行っている。また、希望者へ当館紹介用スライド

「ようこそ友愛労働歴史館へ」、常設展解説スライド「日本労働運動の100年余」などのデジタル情報を提供している。

IV その他

1. 労働歴史館は所蔵する資料の活用

労働歴史館は所蔵する資料を活用し、民主的労働運動や民主社会主義運動、ユニテリアンゆかりの社会運動に関する研究者・学生の調査・研究に協力している。また、これら資料の閲覧者へ便宜を図っている。そのため書庫横に「資料閲覧室」を設置し、閲覧コーナー(定員3名。スキャナー完備)と会議室(会議形式8名)を設けた。これらは当館調査研究員の利用も想定している。

2. 社会・労働関係資料センター連絡協議会

社会・労働関係資料センター連絡協議会(労働資料協)の2022年度第7回定期総会と研修会が、10月24日～25日、(一財)日本鉄道福祉事業協会の労働資料館(東京都品川区西五反田)で開かれた。

総会は2021年度活動報告の確認、2022年度の事業活動の確認などを行った。その後、日本鉄道福祉事業協会の労働資料館の見学と研修会・意見交換を行った。友愛労働歴史館からは藤吉館長と安部千恵さんが参加した。

翌25日(火)は国会図書館国会分館を視察、その後国会議事堂見学と公益財団法人日本交通公社「旅の図書館」の視察・研修を行った。

労働資料協は労働運動や社会運動の資料のリユースを行う団体で、大原社会問題研究所・連合資料室・東京都労働資料センター・同志社大学人文科学研究所・大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)など23の加盟機関と個人会員から構成されている。

以上